人と動物が共存できる住みよい環境に

11月は 動物による危害防止対策強化月間

人と動物が共存できる住みよい生活環境をつくるために、動物の接し方について考えるとともに、愛情を持って適切に飼いましょう。

動物には、飼い主が分かるように名札を付けましょう

犬の首輪には、名札や狂犬病予防注射済票を必ず付けましょう。万が一逃げ出した場合の発見にも役立ちます。

犬の登録と狂犬病予防注射を必ず受けさせましょう

国内に狂犬病が侵入した際、予防注射の実施によって、そのまん延を防ぐことができます。

飼い犬の放し飼いは禁止されています

犬を運動させる場合は、犬を制止できる人が短い引き綱で行いましょう。

犬や猫の不妊・去勢手術等の措置に努めましょう

みだりに繁殖しないよう、また命を無駄にしないよう手術を行いましょう。

猫は屋内で飼いましょう

屋外で飼うと、近隣の方に迷惑をかけるだけでなく、交通事故や病気などの危険があります。

飼い主がいない犬や猫に、むやみにエサを与えないようにしましょう

野良犬や野良猫にむやみにエサを与えると、そこをエサ場にして多数の犬猫が集まり、近隣の方の迷惑や不幸な生命をつくることになります。

公の場所や他人の敷地内で排せつさせるような迷惑行為はやめましょう

犬や猫の排便は、しつけにより分けることが可能です。もし、公の場所等で排せつした場合は、必ず飼い主が片付けてください。

危険な動物を飼うためには許可が必要です

ワニ、ヘビ、サルなどの動物を飼う場合は、保健所長の許可が必要です。また、動物が逃げ出すことのないように、施設の管理には十分に注意しましょう。万が一、逃げた場合には、直ちに保健所、警察へ通報してください。

動物を飼えなくなった場合、新しい飼い主を探しましょう

動物を野に放すことは絶対にやめてください。動物が不幸になるばかりでなく、人への危害や自然へ影響を与え、大きな問題となります。

問千葉県動物愛護センター ☎0476(93)5711
山武健康福祉センター（山武保健所） ☎(54)0611

名誉町民 十枝雄三翁を語る③

★十枝村長、干ばつ対策に悪戦苦闘！

（十枝雄三日記より）

日照りだ、干害だと言っても、なかなか実感がわきません。昭和8年6月23日「永日の旱天にて大網以下海浜に至る挿秧の田見るべからず。農村の惨状寒心の外なし」と日照りで田植えのできない農村の惨状を日記に記しています。

7月に入ると国会、県会、政府関係、県知事等続々と実情視察が入り、9月9日、農林省代表および岡田知事等旱害視察団を桂山路上に迎え、十枝村長が実情報告をします。

福岡村は収穫の見込めない秋のため、9月21日「政府米貸し下げに関し、村会議員協議会を開く。人心安定上、二千俵（一俵60kg）位貸し下げすることに決定す」とあり、干ばつは稲作農民すら食べる米がない状況となりました。

★昭和の御代に、神仏頼みの米作りとは？

干ばつは翌9年も続きます。大網本國寺の「雨乞い祖師」は有名ですが、この年も各地で雨乞い祈とうが行われました。6月16日「正午より地雨到り初更に及ぶ。各所雨祈者は至誠天に通じたるを歓ぶ。但し激甚地の僅かに畝間を白く光らすのみ」とあり、早朝から村内を見回る翁は「上谷、西中、北吉田は植付け絶対不能」と述べ、絶望的です。

九十九里平野の稲作は、古来天水頼みで、両総用水ができるまで、水神様、竜神様に祈るしかなかったのです。

★帰山荘を贈った福岡村民

十枝家は早くから母屋は人手に渡り、一家は長屋門を改造して住んでいました。24年4月、村民・友人たちが新屋「帰山荘」を贈ります。現在、娘の澄子さんが住む家です。日記17日には「帰山荘贈呈式、終に祝宴あり。会員代表者有十余名、来賓十数名、花下筵席にて晴朗を浴びて歓喜極まる。酒二斗九升」と記しています。十枝翁76歳の春、年来の活動に福岡村民の心から感謝の現れでした。

★「十枝の森」寄付の経緯

平成6年に発行された投書集「十枝の森」に、十枝澄子さんは「父、母、長兄を送り、家族を送るつとめは終わりましたが、先祖四百年の思いのこもる屋敷、家族の思いのこもる木々、そして私にとってもかけがいのない自然の森は、どうしても残したいと町へ申し出たが、町と折り合いがつかず白紙に戻り、いったんは茂原市に寄付されましたが、その後町へ戻す動きが起こり、本来の場へ戻ることができました」とあります。（概略）

★町葬の礼をもって送る

昭和31年10月12日、十枝雄三翁は84歳をもって逝去。死因は胃がんでした。町は10月26日町葬をもって送りました。

▶「十枝の森の帰山荘」北吉田758番地

提供　町文化協会／鈴木 ☎(77)2682

大網病院だより 26

骨粗鬆症のおはなし　⑦治療

骨粗鬆症で大切なのは、日常生活の中で骨量を増やす努力をすることです。何年もかかって減ってきた骨ですから、いっぺんに増やすことは困難です。

予防の三原則として「食事」、「運動」、「日光浴」は治療の段階でも重要です。初期の骨量減少でしたら、この三原則を心掛けることで骨量が増えていきます。さらに病気が進むと薬物療法を始めますが、その場合でも三原則をないがしろにしていたのでは薬の効果はありません。どんな薬を選んで、いつから薬物療法を始めるかは、患者さんの年齢や症状の進み具合により、医師が判断します。腰背部痛があるときは、飲み薬や注射により痛みを軽くします。

老化によって減ってしまった骨を若いころのように戻す薬はありません。しかし、最近では早期治療により、骨粗鬆症による骨折がかなり防げるようになりました。

現在使われている薬は、骨の吸収を抑える薬、骨の形成を助ける薬、吸収と形成の骨代謝を調節する薬の三つに大別できます。骨の吸収を抑える薬には、女性ホルモン、カルシトニン、ビスフォスフォネート、イブリフラボン、骨の形成を助ける薬にはビタミンK_2、吸収と形成の骨代謝を調節する薬にはビタミンD_3、カルシウム剤があります。それぞれの薬は飲み方が異なりますので、医師の指示に従ってください。

骨粗鬆症について7回にわたり掲載してきましたが、一番大事なことは、やはり骨粗鬆症の予防であると思います。「食事」、「運動」、「日光浴」の三原則をしっかり実行し、丈夫な骨で長生きをしようではありませんか。

問大網病院　☎（72）1121

歯科衛生士だより 歯っぴーライフ 58

「11月8日は（いい歯の日）です」

歯と口の健康を保つことは、単に食べ物をかむだけでなく、食事や会話を楽しむなど、健康で豊かな生活を送るための基礎となります。

そこで、11月8日を「いい歯の日」と設定して、「80歳になっても20本以上の歯を保とう」という8020（ハチマル・ニイマル）運動を推進しています。

◇歯の健康を保つために、次のようなことを心掛けましょう
- ムシ歯予防のため、フッ化物を利用する（フッ化物歯面塗布、フッ化物入りの歯磨き剤など）。
- デンタルフロスなどを使って歯と歯肉の手入れをする。
- 定期的に歯科健診を受ける。

また、よくかんで食べることは、ムシ歯や歯周疾患の予防に加えて、肥満や生活習慣病の予防につながるといわれており、全身の健康にとって大変重要です。この日を機に、千葉県の農水産物を利用して、よくかんで食べる習慣を身に付けましょう。

健康福祉課では、毎月歯科相談を行っています。ムシ歯・歯周病の予防方法、自分に合った磨き方、赤ちゃん・子どもの歯の手入れ法、在宅療養者の口腔ケアなど、歯科衛生士がアドバイスしますので、お気軽にご相談ください。

※電話でお申し込みください
申・問健康福祉課健康指導係 ☎（72）8321